

# 東北地方太平洋沖地震 連合救援ニュース

発行日 2011年3月23日(水)  
発行 連合災害対策救援本部  
連絡先 東京都千代田区神田駿河台 3-2-11  
事務局 TEL 03-5295-0539

## NO. 4号

3月11日の地震発生から12日が経過し、被害の全貌が徐々に明らかになってきました。死者9,199人、行方不明1万3,786人、26万3,915人が全国1,832カ所で避難所生活を送っています(警察庁22日23時発表)。犠牲になられた方々に心より哀悼の意を表すとともに、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

### 1. 南雲事務局長ら岩手、宮城、福島を激励訪問

3月19日、連合本部の南雲事務局長(随行:磯部総務局長)が福島と宮城、山本副事務局長(随行:松永組織拡大・組織対策局長)が岩手を訪れ、甚大な被災を受けた各地方連合会を激励するとともに、愛のカンパの拠出報告、被災状況の把握や要望事項についてヒヤリングを行いました。

#### 福島・宮城激励行動報告

##### 【連合福島】

南雲事務局長と磯部総務局長は、朝8時に東京を出発し、緊急車両しか通れない東北自動車道に入り、福島・連合に向かった。連合福島事務所には11時40分ころ到着し、救援物資を届け、影山会長、今泉事務局長ら他役職員に、愛のカンパ1000万円目録と本部役職員の「がんばれ福島!」の寄せ書きをした連合旗を渡した。

影山会長から、被災状況を説明する中で、「福島はまだ災害途上にあり、とくに風評被害などで支援物資が届かないことや、県民が県外に避難が続いている。とくにガソリン不足が、避難するにもまた食料・生活用品を確保するにも、もっとも困難をきたしている要因である。」と強く訴えられました。

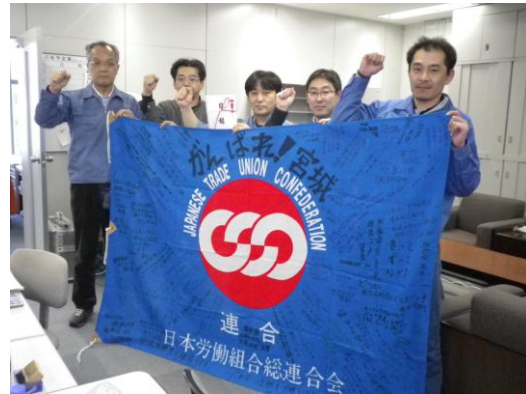
さらに、事業所が壊れて、修復するにも職人が来ないこと、お店関係では営業できないことから、雇用・解雇問題が出てきている。そうした対応を出来る人の応援が欲しい。ボランティアについては、今はまだその段階ではなく、行政とも連携していくことが重要」との話だった。



### 【連合宮城】

連合宮城には、14時半頃到着した。救援物資を届けるとともに、愛のカンパ1000万円目録と、「がんばれ宮城！」寄せ書き連合旗を渡した。山崎会長、佐藤事務局長から被災状況や、県の対策本部の状況を説明を受けました。ボランティアについては、「受け入れるとしても県のボランティアセンターの一員として参加していくことになる。連合宮城としても入居している会館の耐震検査を確認した上で、あらためて会館と相談し、可能となれば会議室をボランティアの宿泊場所とすることは考えられるが」との話だった。

連合福島も連合宮城も深刻なガソリン不足で、役職員の皆様は事務局に行くにも、路線バスを乗り換えたり、徒歩で1時間かけて通ったりしているとのことで、自家用車は全く動かさずにいるとのことだった。なお、両地方連合会とも地域協議会含めて専従役職員の皆様は安否確認とれ無事とのことだった。



### 岩手激励行動報告

3月19日、秋田空港から連合秋田・清野事務局長の運転する車で連合岩手の本部事務所を訪問。連合岩手砂金会長、小野事務局長らに檄布(連合旗)、支援金目録を手渡し、山本副事務局長より連合本部の取組経過(対政府・政党要請、労金・全労済の取組含む)を報告した。

連合岩手からは、被災状況とともに、離職者対策としての復興工事への臨時採用(雇用調整給付金の支給要件等の緩和)等の行政の対応についての報告があり、当面急を要するボランティア業務としては救援物資の分別・配送関係が求められていること、今後被災者の実態(孤児支援等々)から種々のニーズが出てくると思われるが被災現地のニーズ・要望を整理し、支援・協力を求めたい、との意見・要望が示された。

その後、連合岩手・砂金会長及び小野事務局長、連合秋田・清野事務局とともに被災地を視察した。視察地域の災害は、津波によるものがそのほとんどを占めており、町そのものがなくなるなど行政機関も機能を失っている。水の流れて明暗を分け、道一本を隔てて全く無傷という状況が散見された。土地の区画などは全く判別できず人力による瓦礫の処理などは不可能であり、重機によって整地し更地の上に新しい街作りの取組など復興には相当の期間を要すると判断される。



## 2. 緊急中央執行委員会 連合の当面の取り組みを確認

連合は、本日午後、緊急の第 19 回中央執行委員会を開催した。冒頭、犠牲者の冥福を祈り全員で黙祷を行い、古賀会長は「全国組織の連合として、被災地の地方連合会とも連携をしながら、連帯と支え合いの観点から、この大震災を克服していきたい」とあいさつした。

その後、辻元清美・内閣総理大臣補佐官(震災ボランティア連携室担当)と「支援ボランティア準備室」筆頭副室長の泉健太衆議院議員が駆けつけた。辻元補佐官は、「現在は個人のボランティアが活動できる状況ではない、ネットワークと組織力を持った連合の協力をお願いしたい」、泉筆頭副室長は「瓦礫の撤去、被災家屋の掃除等、安心してボランティア活動ができる環境を早急に装備する、連合の皆さんにも是非ご協力いただきたい」と連合の取り組みへの期待を表明しました。

東北太平洋沖地震に対する連合の当面の取り組みを以下のとおり確認しました。

### 東北地方太平洋沖地震に対する連合の当面の取り組み

#### 1. 被災地の状況把握と支援の継続

地震発生以降は交通事情や現地事情により被災地への入域は控えていたが、今後は、被災状況の調査(3/16 第一次集約・別紙参照)、及び、岩手・宮城・福島の状況を踏まえ、現地地方連合会の体制確立、具体的な支援行動に着手する。今後とも、被災地(地方連合会)のニーズ・要望をタイムリーに把握するとともに、構成組織・地方連合会とも連携して継続的な支援を行う。

#### 2. 具体的な支援行動の準備

##### ① ボランティア派遣等の人的支援

政府に設置された「災害ボランティア連携室」からの要請を踏まえて早急に派遣体制を整える。そのため、被災地の受け入れ体制や支援内容、移動手段の確保など、必要な条件整備のために本部から先遣チームを、派遣する。(盛岡、仙台に、一週間の目途で派遣中。)

##### ② 災害救援物資の提供・搬送

災害救援物資の提供は被災地地方連合会からの要望・ニーズを踏まえて、都道府県防災担当窓口を通じて取り扱う。

搬送については、当面、政府が3月16日に決定した「災害救援物資の輸送に関するスキーム」を活用する(都道府県の防災担当窓口連絡し、自衛隊駐屯地・基地集積所等に持ち込む)。

構成組織・地方連合会が、直接被災地地方連合会に送付する場合は、災害対策救援本部(物資支援グループ)に事前に連絡し、同救援本部が当該地方連合会と調整する。

#### 3. 政府・自治体・政党等への要請

連合として、緊急に対処すべき事項については3月15～16日にかけて政府・与野党に対して要請行動を行ったが、かつて経験したことのない震災被害であることを踏まえ、防災・安全対策のみならず雇用対策、経済・産業対策など、法的措置も含めて、必要と思われる事

項を集約し、後日追加的な要請を行う。要請内容については、構成組織・地方連合会からの意見・要望も可能な範囲で集約しつつとりまとめる。

#### 4. 「連合東北地方太平洋沖地震救援カンパ」の取り組み

3月14日の緊急三役会での確認を踏まえて、構成組織・地方連合会にカンパ活動を要請している。当面、3月末の第一次集約、4月末の第2次集約にむけて、組合員や家族からの積極的な支援を呼びかけていく。また、連合本部、地方連合会を中心に街頭カンパにも積極的に取り組む。

### 3. JR お茶の水駅で街頭募金

3月18日、連合本部と構成組織は、早朝および夕刻に、JR 御茶ノ水駅前街頭募金活動を行い、合計で、710,022 円のカンパ金が集まりました。いただいたカンパ金は全額、被災地の自治体や被災された方々への支援金として寄付します。今後も定期的に街頭での募金活動を実施していきます。

※「連合本部 東北地方太平洋沖地震救援カンパ」今後の予定

○3月25日(金) JR秋葉原駅 8:30~9:30、17:30~18:30

○4月01日(金) JR神田駅 8:30~9:30、17:30~18:30

以上